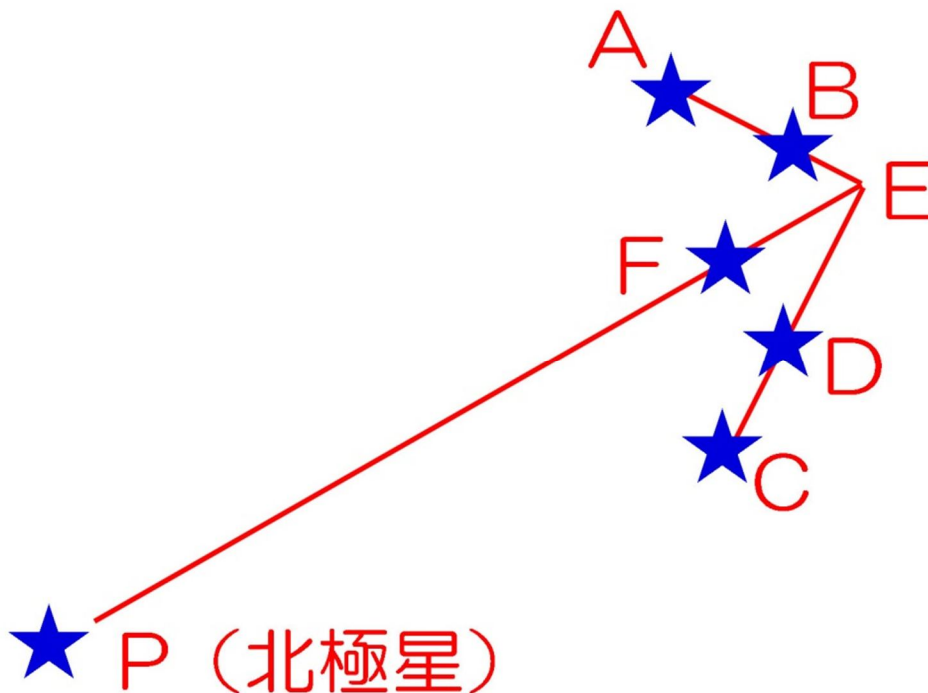


## 「錨星 (いかりぼし)」

私の山荘はカラマツの森に囲まれているので、樹間から天頂 (天球上の頭上) 付近は良く見えるのですが、特に北の空の観望が難しいです。しかし敷地の中をくまなく歩くと、一ヶ所だけ北極星が見える場所を見つけました。それもカラマツの木々のほんのすき間です。

北極星を探す方法は何種類かあります。北斗七星から探るのが一番簡単ですが、季節や時間帯、また観測地点の視界によっては、使えないことがあります。もう一つ、カシオペア座から探す方法もあります。幸いカシオペア座は、北極星をはさんで北斗七星とはほぼ逆サイドにあるので、大抵の場合、どちらか一方の方法を使えます。



### 「カシオペア座から北極星を探す方法」

A星-B星の延長とC星-D星の延長の交点をE点とします。(E点には明るい星はありません。) E点とF星の長さを1として、それをほぼ5倍伸ばした直線上にあるのが北極星Pです。ことばで考えるよりも、この図のイメージを暗記したほうが楽に見つけられます。(作図；田中 千尋)

上の図でもわかるように、カシオペア座の北極星を線で結ぶと、小型船の錨のように見えます。実際に、この星の並びは、古来「錨星 (いかりぼし)」と呼ばれていました。北の夜空で、「天の錨」を探してみてください。しかし「どこにあるっ！どれもちがうっ！」と叫びまくって、「天の怒り」をかわないようにしましょう。

**\*用語について**；「北極星」は正確には固有の恒星をさすことばではありません。天の北極 (赤緯  $90^\circ$ ) に一番近い輝星 (およそ3等星より明るい恒星) をさします。現在はこぐま座  $\alpha$  星 (ポラリス) が北極星ですが、地球の歳差 (自転軸のブレ) によって、過去も未来も、北極星は別の恒星が担当します。天の南極も同じ理屈ですが、南極星に相当する恒星は現在存在しません。



「錨星とその周辺の星座」(下は解説図)

カシオペア周辺は天の川も横切り、なかなかぎやかです。「錨星」を思い描くと、北極星がカラマツのすき間に、辛うじて見えていることに気づきます。ギザギザ模様のとかげ座(ミニカシオペア)も、よく探すと見つかります。(2014,-7.30 未明 北軽井沢で撮影。)



(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)